

自然素材アドバイザー

一桧 靖人



自然素材住宅で**本物の**

「美味しい空気」の

創りかた

創業350年 元材木商の老舗建設会社 社長が明かす

水や食べ物は1日2kg
空気は1日20kg
体に取り込んでます。

自然素材住宅を、予算に納めるコツは、明確な理由の優先順位を知る事です。

自然素材
で家を建てれば全て
美味しい空気
になると
思っていないませんか？

目次

はじめに・・・・・・・・・・	4
第1章 本当に安心できる素材がわからない	10
作り手の都合に合わせた住宅	11
住宅業界の変化	11
今の普通と昔の普通	14
自然素材とはそもそもナニ？	18
第2章 私がこの小冊子を書いた理由	25
国が考えるシックハウス対策の甘さ	28
一生涯で最も摂取するのは空気です	30

本物の自然素材をつかった住宅を提供しようと思ったわけ	34
大切なのは正しく知って、自らが選ぶこと	36
化学物質を排除した「宿泊体感型モデルルーム」	38

第3章 プロも知らない「自然素材の正しい選び方」	41
素材選びに重要なのは「優先順位」	41
どんな素材を選ぶのが良いのか	44
人工乾燥と天然乾燥の違い	47
「新月伐採」について	49
葉がらし乾燥・天然乾燥材について	51

第4章 気になる予算とお手入れの話	62
自然素材を使った場合のコストアップは	62

予算内に納めるコツ	65
住宅のコストバランスを理解し、コストダウンする方法	65
自然素材のお手入れ方法は意外と簡単	66
大切なことは	71
第5章 信頼できる施工会社の選び方	72
信頼できる素材を提供しているか	73
契約前に現場で実際に住まいづくりに携わる人に会ってみましょう	73
長くお付き合いしてくれる会社さんですか	75
現場見学会に行こう	76
あとがき	78

はじめに

私は東京の墨田区向島で「下町の小さな建設会社」を営んでいる一枈靖人（いちます やすひと）と申します。

社員10名に満たない小さな会社ですが創業はかなり古く、材木屋として345年もの長きにわたって商売を続けてきました。しかし、9代目となる私が11年前に決断し建設会社へと事業転換したのです。

先祖代々材木業ということもあり、今もよく木の産地へ足を運び、さまざまな木に触れ、自然素材、天然素材の家づくりの研究を続けています。

そんな私に、ある同級生から突然電話が入ってきたのです。

「1週間前に、新しいマンションに引っ越しをしたら、妻と息子の具合がどうもヘンなんだ」

「大家さんにこの話をすると、『シックハウス対策の建材を使ってリフォームした部屋だから大丈夫ですよ。問題ありませんよ』の一点張り。お前は専門家だろ。」

「柵はどう思うっ？」

という相談だったのです。

高度経済成長を遂げるために、日本の住宅産業はもの凄いスピードで家を供給しなければなりませんでした。

住宅メーカーや建材メーカーは、「いかに効率よく家をつくるか。建材を安く早く供給するか」ということが一番の使命だったのです。正直、健康への配慮はあまり考

えていなかったと思います。

その結果1990年代に、住宅の健康被害が急速に広がっていったのです。

それがシックハウス問題です。社会問題となったシックハウスを解決するためにその後建築基準法が改正されました。

ところが、この法律は決して完ぺきなものではなかったのです。

法改正の後、一般の建材メーカーはもちろんのこと、自然素材、天然素材をうたった建材メーカーも、シックハウス対策をした建材であることをアピールしています。しかし、それは基準値のごく一部を満たすだけで、法律をクリアすることができたのです。

ウォーキングやサプリメントなど、世間はこれだけ健康ブームになっているにも関わらず、「住宅環境に関わる法律がどういうものなのか？」健康にどのような影響が

あるのか？」ということにはあまり関心がないようです。

それをいいことに、住宅産業に携わる大部分の方は、その問題の本質には触れようとしません。なぜなら自分の仕事がやりづらくなるからです。

私たちは身体に優しい『自然素材』も扱いますし、『一般建材』も扱っています。しかし、私は本当のことを伝えた上で、皆さんに選択していただけるようにすることが、我々建築のプロの役割だと思っています。

ストックに「全てが自然素材の住宅でなければダメ！」という厳しいスタンスではなく、自然素材と現代の新材の利点と欠点を正しく理解して、上手に組み合わせた『バランスの良い家づくり』が大切だと思います。

そのためには、どうしても正しい目を持ったプロのアドバイスが必要です。

この小冊子は、

「現代の住宅は何かおかしいかも？　これは勉強しなければ……」とお気づきになられた方。

あるいは、「本当の自然素材だけを使った家に住みたい。でも高すぎて手が出ないなあ」とお悩みの方。

さらには、「自然素材を使った住宅はいいと思うけれど、手入れが大変なのでは？」と、誤解している方。

このような方の「お役に立つことができれば……」という想いで書いてみました。

実際の『温もりの感のある自然素材』に触れていただきながらお伝えできないのは残念ですが、なるべくわかりやすくなるよう自分なりに何度も書き直してみました。

しかし、私は文章づくりのプロではありません。

わかりにくい表現も出てくると思いますが、最後までお付き合いいただきますよう
よろしく願います。

一
柟
靖
人

第1章 本心に安心できる素材がわからない

インターネットの普及で、現代社会にはさまざまな情報が溢れています。

その中には『正しい情報』と『間違った情報』が混在しています。

発信者も悪気はないのですが、知らず知らずのうちに誤った情報を流していることもあるのです。

そのひとつに、「建築基準法で定められた基準に適合していれば、体に害はない」という情報があるのです。

■作り手の都合に合わせた住宅

高度経済成長時代に住宅の大量生産システムが、大手の住宅メーカーを中心に開発されました。作り手側の都合を優先した生産効率の良い建材がどんどん開発・生産されたのです。

しかし、生産効率を優先した為に、様々な化学物質を多用し、健康を害する問題、たとえば、化学物質過敏症やシックハウス症候群といった問題が90年代にマスコミにとりあげられ、とても大きな社会問題となったのです。

その結果、2003年7月1日に建築基準法が改正され、シックハウス対策が義務づけられたのですが、「この対策基準を守っていれば安全です」「いや、これでは危険だ」と、専門家の間でも意見がわかれたのです。

■住宅業界の変化

住宅業界も大きな転換期を迎えています。

96年には新築着工棟数が163万戸あったのですが、現在は80万戸以下にまで減っています。そこで政府も『優良ストック住宅市場の創生』を柱とする住宅施策へと大きく舵を切っています。

当然、今まで新築に依存していた住宅メーカーも、これまでは見向きもしなかったリフォーム産業に進出してきました。また住宅メーカーから仕事をもらっていた下請け工務店さんだけでなく、一部の専門職、たとえば塗装（ペンキ屋さん）やクロス（壁紙屋さん）といった人たちも、生き残りのためにリフォーム産業へと進出してきたのです。

その結果何が起こったかというと、『建築』という住まいの根本的な知識をしっかりとして学んでこなかった人たちが増えてしまったのです。

また、最近の『ナチュラル指向』や『自然素材住宅ブーム』などによって、無垢のフローリングと左官壁（塗り壁）でつくれば俗に言う『健康住宅』が出来上がるようなイメージでお客様への提案をしている会社も珍しくありません。

「何が本当によい住環境なのだろう？」とインターネットで調べてみると、どのサイトももっともらしいことが書いてあるのですが、一般の方々には非常にわかりづらく「一体、何が正しいのだろう？」何を選択したらよいのだろう？」と逆に頭を抱えてしまう方が多いのではないのでしょうか。

本来、建築の専門家、住環境の専門家は、一般の住宅に使われる建材や、俗に言う自然素材と言われる素材の産地に赴き、生産現場や工場を自分の目で確認し、「本当に良い物はどれ」なのか、また「なぜ良くないのか」など、正しい情報をお客様に伝えなければなりません。

そして、気になる『コスト』についても十分に説明し、予算とのバランス調整をし

ながら、納得のいく素材選びのお手伝いをすることが大切ではないでしょうか。

さらには、自然素材とは縁の切れない『お手入れ方法』も、とても気になるところだと思います。

こうした面も含めて、しっかりとサポートしてくれるプロを見つけなければなりません。

■ 今の普通と昔の普通

『今の普通の住宅』と『昔の普通の住宅』の違いがわかりますか。

昔の普通とはどういう住宅でしょうか。

昔の住宅は木や畳、和紙や障子紙、土や漆喰、石などで作られていました。

床、壁、天井が湿度を適切に調整し、呼吸していました。

そこには、シックハウスなどは存在しなかったのです。

昔の日本の家は夏型住宅でした。

その証拠に、徒然草で吉田兼好は「家は夏を旨とすべし」と書いています。つまり、高温多湿の夏に過ごしやすいように考えられていたのです。軒が深く、風通しの良い襖や障子の家でした。

一方、1970年代のオイルショック以降の現代住宅は、冬型住宅へと変化していきました。

『省エネ住宅 Ⅱ 暖房効率の良い家』と考えて、冬に寒くないように隙間のない密閉型住宅になったのです。

家自体が密閉型で、床は合板、壁や天井はビニールクロスで覆われる。これが『今の普通の住宅』となったのです。

※本書では、紙面の都合で床や壁・天井などの内装材に限ってお話します。

床に使うフローリングと言われているものは、実は表面は0.3ミリ程度にまで薄くスライスした木を化学性の接着剤で固めた合板に貼り付けてあります。

その合板自体も薄くスライスした木を接着剤で固めているので当然化学性の臭いがありますし、湿気を吸収、もしくは放出したりはできません。触れると冷たく、劣化すると表面が剥がれてきます。

当然、純粋な木材ではないので、次回のリフォームなどで解体すると産業廃棄物になってしまいます。

次に、日本人の文化とも言える畳ですが、驚いたことに現在の市場を占める畳の80％～90％は中国産です。中国産のイグサがこういった農薬を使って育てられたのかは消費者の知るよしありません。

また昔は泥で染めるのが当たり前だったイグサも、現在では薬品で染めるのが一般的です。藁床もマンシヨンの普及から、スタイロフォームという断熱材を芯材に使っ

たスタイロ畳が一般的になりました。

宮城県産の藁を天然乾燥させ藁床をつくり、熊本の契約農家で有機栽培に近い状態で真面目につくっている生産農家さんは絶滅寸前という状態です。

現代の畳業界はこのような実情ですが、「やっぱり日本人は畳だよね」などと言って、可愛いお孫さんが、本来の姿ではない畳の上でハイハイしているのです。

壁や天井で使われるビニールクロスはどうか。

クロスはクロス（布）からきた名称で、本来は布を表す単語です。昔は壁に布を貼っていましたが、今の住宅では、ビニールクロスを貼るのが一般的です。

ビニール素材なので、湿度の吸収や放出機能はありません。イメージでお伝えすると、「ラップで包まれたような住環境」。つまりビニールハウスなのです。ビニールハウスが『普通の家』で良いわけがありません。

さらに、現代の住宅は、火災がおきると焼死するのではなく、こういった化学性の建材から出る煙で中毒死となり、結果焼け死ぬのだそうです。

『今の普通の住宅』と『昔の普通の住宅』との違いをご理解いただけたかと思います。ほとんどの方が、「やっぱり自然素材住宅がいいなあ」と思ったのではないでしようか。

では、ここで質問です。

そもそも『自然素材』とは、どんなものなのでしょうか？

■ 自然素材とはそもそもナニ？

一般的には、自然界に存在する素材、化学性の物質の入っていない素材を言いますが、現代において本当にそんな建材があるのでしょうか。

一つの例です。あるメーカーの珪藻土（けいそうど）は珪藻土100%なので、自然素材100%とうたっています。しかし100%故に、カビが生えてしまうという欠点があります。逆に、珪藻土100%なので、補修時には水を少し含ませて、いったん半練り状にして補修が出来るという長所もあるのです。

あるメーカーの珪藻土は、施工性を良くする、カビを生えさせないなどの理由で樹脂などを混入させています。樹脂は当然化学物質を含んでおりますので、厳密にいうと『自然素材』『天然素材』とは言えません。

またあるメーカーの珪藻土は、マグネシウムやニガリで固め、ゼオライトで消臭効果を高めているものもあります。これらは自然界に存在するものですので『自然素材』と言っていいかもしれません。

自然素材の代表である無垢のフローリングはどうでしょうか。

「えっ、無垢の木は自然の無垢の木でしょう?」

ハイ、たしかに無垢の木は自然の木です。しかし、木を切った後の工程で大きな差が出るのです。ここはとても大切なことなので、しっかり読んでくださいね。

伐採したばかりの木材は、水分を多く含んでいます。この水分を少なくしないと乾燥過程で反ったり割れたりします。しかし自然に乾燥するのを待っていると、時間がかかりますし、場所も取られコストもかかります。

そこで考えられたのが人工乾燥です。

機械を使って強制的に短期間で水分を抜くことで、建材として使用しても、狂ったり割れたりが少なくなるのです。

しかし、強制的に短期間で行うことで、木の本来持っている油まで抜けてしまい、手触りや香りが全く変わってしまいます。

つまり『木のミイラ』を作っているようなものだと言う人もいるくらいです。
はたしてこれは自然素材と言えるのでしょうか。

それとは対照的に、天然で乾燥させた木材もあります。

これは昔ながらの方法で、木材の水分が一番少ない時期、つまり寒い季節に伐採し、枝葉がついた状態で数日乾燥させます。これを『葉枯らし』と言います。

葉枯らしを行うことで、水分や澱粉質を少なくして、虫やカビが発生するのを抑える効果があります。

葉枯らしの後、山から降ろし、製材して数年かけてじっくりと自然に乾燥させるのです。この場合は木の本来もっている香りや艶が残ります。しかし手間暇や保管場所など、コストがかかるだけに、実践している製材所はとても少ないのです。

特に気をつけなければならないのは、『葉枯らし』『天然乾燥』をやっていると

うたっても、実際には期間を短くしているところが多いのです。

無垢の木といっても、産地の国籍しか明らかにせず、という環境で育った木か、
どという製材過程でどいつた環境の倉庫に保管され、皆様の自宅まで届くのかも不
明な材料が多いというのが実態です。

中には防虫剤や漂白剤を使ったもの、またはそういう材料とともに同じ倉庫で保管
されたものもあります。

残念なことですが、木材には産地を偽ったものもあります。私が本当に良い木材を
求めて探し回っていたころ、一つ一つの木材を、完全に産地や生産者を特定できない
という問題に突き当たりました。流通市場では、たどっていけば必ず生産者に会える
はずだと信じていた私にとって、これはかなりショックな出来事でした。

ある銘木を生み出す有名な産地を訪れたとき、私は悲しい現実を知ったのです。

そこには小さな小屋が建っていました。その小屋はある住宅会社が製材所として使っているのですが、その製材所で加工している木は地元の木ではありませんでした。他の産地の木を運び込み、この地で加工するのです。

その加工が終わると、本来の産地名は消えて、この製材所の住所である『××産ブランド』となるのです。

これには地元の人たちも怒りを通り越して呆れていました。

私は、このありさまを目の当たりにして、

「これはもう自分の目で確認したものしか信じられない」

「今後は、必ず現地に赴き、生産者と会い、この目で確かめた木だけをお客様に提供しよう」と決意したのです。

自然素材住宅と言っても、会社によって様々なものが提供されています。

信頼出来る専門家のアドバイスをもとに、『新建材』と『自然素材』自然素材のメ

リット、デメリット。その使い分けについての知識を深めていきましょう。

第2章 私がこの小冊子を書いた理由

突然ですが、人間は1日に何kgの空気を吸っているのかご存じですか。

空気で「何kg?」と聞かれてもピンと来ないかもしれませんが、水の中で水の重さを感じないのと同じように、重さを感じない空気にもちゃんと重さがあるのです。

人間は1日に食べ物や飲み物を約2kg摂り、空気を15〜20kgも吸うと言われています。食べ物や飲み物の場合は、肝臓がある程度有害な物を濾過してくれますが、空気に含まれる有害物質は、肺胞から直に血液へと運び込まれてしまうのです。

そう考えると空気環境がいかに大切であるのかおわかりになると思います。

では、家の中の空気は何の影響を受けるでしょうか。

住宅建材はもちろんですが、カーテンや防虫剤、家具や芳香剤などから発散される成分が家の中の空気に強い影響を与えるのです。

学校などの工事では、厳密に環境測定を行います。工事の前と後に、ホルムアルデヒドなどの化学物質の残留数値を測定し、人体に有害な物質が残っていないか検査するのです。

以前聞いた話では、教室の環境測定をしたところ、化学物質の数値が著しく高く出てしまい、施工した際の建材を詳しく調べたのですが、全く原因がわかりませんでした。そこでさらに調査を進めていくと、その原因は生徒の中国産の上履きだったそうです。室内に置いてあるものが、室内空気にこれほど大きな影響を与えるのです。

当社の事務所を新築した際にも学校の事例とよく似た出来事がありました。

私の会社の宿泊体感型モデルルーム『空まめの木』は、接着剤やボンド、合板などが、化学性のものは一切排除して、天然の糊と純粋な自然素材だけでつくった住環境ですが、事務所もほぼそれに近い方法で、合板や化学性の接着剤やボンドを一切使わずに事務所をつくりました。

工事中でも木の香りが際立ち、とても癒やされる現場でした。

この工事現場を担当する弊社のN君は慢性の皮膚炎を持っていました。ところが、この事務所の工事中は皮膚炎が治まったのです。まわりの社員たちもこれには本当に驚かされました。

そんな素晴らしい環境の新事務所が完成し、引っ越し作業を進めて行くと、清々しい空気が徐々に薄れていきました。

「何が原因だろう？」と調べてみると、建築資材のカatalogやサンプルが犯人だったのです。

■ 国が考えるシックハウス対策の甘さ

シックハウス対策に関わる法令は、平成15年（2003年）7月1日に施行されました。ここでこの法令、すなわち『国が考える住環境』について簡単に説明したいと思います。

この法令によって、2つの化学物質が規制を受けたのです。

【クロルピリフォス】

これは主にシロアリから建物の土台を守るために使用されていた薬剤に含まれていました。居室を有する建築物には、このクロルピリフォスを添加した建材の使用が全面的に禁止されました。

【ホルムアルデヒド】

これは内装の仕上げにおいてホルムアルデヒドが制限されました。

ホルムアルデヒド発散建築材料の面積制限が設定されたのです。（令第20条の7）

さらに、人体に影響を及ぼす化学物質と認識されているので、『換気設備』を義務づけたのです。（令第20条の8）

つまり、「化学物質含有建材は全面的に禁止することはできないので、使用する量を制限し、さらに発散されることは防げないので、24時間換気していなさい」というおかしな法律です。

さらに、首をかき上げてしまうのは、リフォーム工事では24時間換気が義務づけられていないのです。

国民生活の保障と向上を司る厚生労働省はなんと言っているのでしょうか。

驚くことに、国土交通省の2物質を遙かに上回る13物質を化学物質の規制対象にあげ

ているのです。

基準数値の方では、やっとWHOの基準値0.08 ppmに追いつきました。余談ですが、カナダではさらに厳しい0.05 ppmを基準値としています。

■ 一生涯で最も摂取するのは空気です

先ほど、「1日で何kgの空気を吸っているでしょうか?」と質問いたしました。ここで、もうひとつ質問します。

「私たちが吸っている空気ですが、室内空気と室外空気の比率はどれぐらいだと思いますか?」

日本建築学会の「シックハウスを防ぐ最新知識」のデータから主なものをあげますと、

- ・ 公共施設の空気 12%
- ・ 産業排気 9%

・外気 5%

・室内空気 57%

私たちが一生で吸う空気の半分以上は『室内の空気』なのです。

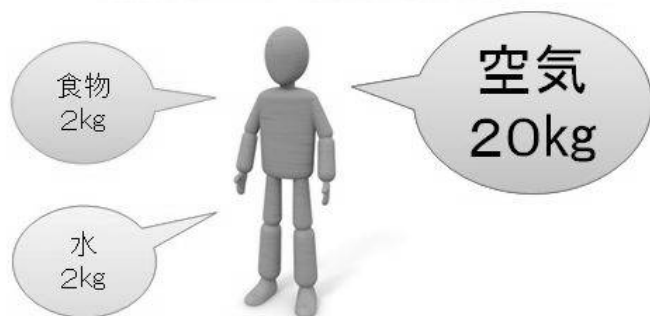
ちなみに飲み物8%、食べ物7%でしかありません。

では、次に子供と大人の空気摂取量の違いについて説明します。

東京都福祉保健局の『化学物質の子供ガイドライン（室内空気編）』によると、1日あたりの呼吸量は体重一キロあたり子供で0.6 m³、大人で0.3 m³、なんと子供は大人の2倍。という数値になっています。室内空気の汚染が小さな子供たちに大きな影響を与えるのです。

水や食べ物は1日2kg

空気は1日に20kg

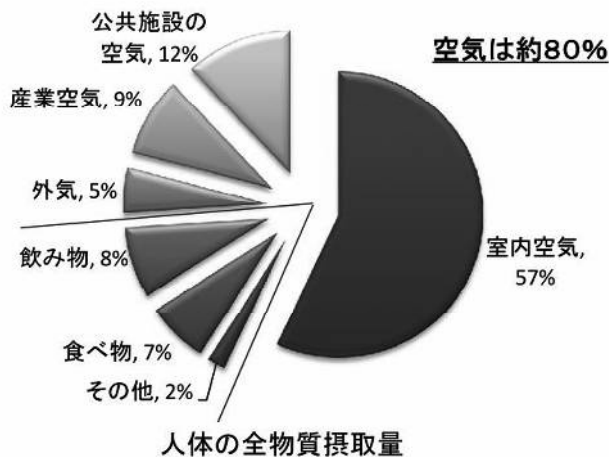


食べ物は肝臓で濾過されるが、
空気は肺胞から直に血液です。

家の中の空気は家がつくっています



一生涯で最も摂取するのは空気です



日本建築学会
「シックハウスを防ぐ最新知識」より

「シックハウス症候群」になると



■ 本物の自然素材をつかった住宅を提供しようと思ったわけ

一部の農家さんは、「農協などに納める野菜には農薬を使い、見た目のよい綺麗な野菜を作りますが、自分達の家族が食べる野菜には農薬は使わない」という話を聞いたことがあります。

私はこの話を聞いて驚くと共に、「でも、そのようになるだろうなあ」とやるせない気持ちにもなったのです。

『食品の裏側』という本をご存じでしょうか。

食品添加物の神様と言われた方が執筆した本で、ベストセラーになりました。

廃棄寸前のクズ肉に30種類の食品添加物を加えると、格安の美味しいミートボールになったそうです。ある日の夕方、自宅に帰ったところ、それを食べている娘を見て、「恐ろしくなった!」と本の中で語っています。

残念ながら一部の食品メーカーは、自分達が食べたくないものを生産し、『食品』

ではなく『商品』として販売しているのです。先ほど紹介した野菜をつくる農家も同じです。

このような食品の安全性について考えているうちに、

「では、私たち建設業界はどうなの？」と自分の業界についても考えてみたのです。お客様に提供する住まいは『商品』であり、安く、クレームにならないというのが根底にあるのです。しかし建設業界の人たちで、自然素材の心地よさ、新材の危険性を知っている人は、自分達の家づくりでは無垢の床を使っているのです。

自分の家づくりなら自然素材を使うのに、お客様には提案しない。

その理由は、「お客様は新材の危険性を理解できないから……」「自然素材は反りなどのクレームが出やすいから、トラブルが怖いから……」

このような風潮が今もしっかり根付いているのです。

「もう、自分の気持ちを騙すことはできない」

という思いから、「よし！ 本当の自然素材を使った家づくりを啓蒙していこう。積極的にお客様に伝えていこう」と心に決意したのです。

■ 大切なのは正しく知って、自らが選ぶこと

今や、食品添加物無し、新建材無しでは、社会生活が成り立たない時代になってしまいました。「これらは良くないので使ってはいけない」と全面否定するのではなく、害の可能性などをちゃんと勉強して、理解してから自らの意思で選ぶということが大切だと思います。夏場の忙しいお昼にコンビニのおにぎりを食べられるのは食品添加物があるからです。

そうしたメリットとデメリットをしっかりと知り、自分には何が大切なのか、何を優先するべきなのかをしっかりと考える。そして選ぶことが重要なのです。

それと同じように、住環境に使われている新建材の害の可能性を学ぶと共に、新建材の便利さや意外と簡単な自然素材のお手入れの方法なども勉強したうえで、あなたのライフスタイルに合った『家づくり』に着手してもらいたいと強く願っています。しかし、私たち建築業界側もその体制づくりがまだまだ間に合っていないのです。

作り手側は（施工会社）自分たち優先の建材選びになっています。危険性には目をつぶっています。木材の産地偽装も行われています。

「これらを改善していくには、私ひとりの力ではどうにもならない……：」

「でも、その問題を多くの人に伝える。その害を少しでも回避する方法をお教えた。い。これぐらいなら、私ひとりでもできる」

「できるだけ多くの方に、本当に良い素材選びを学んでもらい、『空気の美味しい家』に住んでもらいたい」

私は、こんな想いでこの小冊子を書くことと決意したのです。

■ 化学物質を排除した「宿泊体感型モデルルーム」

私がいくら声高に自然素材の家の素晴らしさを伝えても、なかなか言葉では伝わらないという現実がありました。

そこで、私は完全に化学物質を排除した空間『宿泊体感型モデルルーム』を創ることにしました。

このモデルルーム施工担当 N君の皮膚炎が、モデルルームの工事中に治まったという『室内の空気の美味しさ』を多くの方に体験してもらいたいという願いを込めます。

内部の仕上げには徹底的にこだわりました。

カーボンマイレージ※を低く抑えるために、産地はなるべく近県の物を選びました。下地などにも化学性の糊で貼り合わせた合板やベニヤを一切使用せず、杉の無垢板で下地からつくりました。

※カーボンマイレージとは、産地と消費地が離れていれば離れているほど、輸送機関を多く使うので、より多くの二酸化炭素を排出してしまうという考え方を参考に開発され指標。

使用する接着剤はニカワを主原料とし、布クロスは澱粉とタピオカ、コーンスターチを原料とする糊を使用、土壁は海草糊を使いました。

そして、キッチンは職人の町、大田区の友人の会社に特注で作ってもらい、キッチンの床はマイナスイオンを出すと言われる十和田石に床暖房を入れ、ペレットストーブで冬でも快適な環境としました。

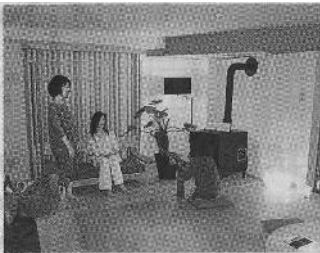
さらに、天竜の桧のフローリングや樺のカウンター。畳は国産有機のイグサと藁床を使っています。扉関係も全て自然系接着剤を使用してつくりました。

家具においても、様々な家具職人さんの中から「この方なら」という方に愛知県まで実際に会いに行きました。そしてその方の想いを聞き、共感した素敵な家具職人のご夫婦に、八幡平の栗の木を使って製作して頂きました。

「全ての材料が、産地・生産者がハッキリしているものか？ 間違いないものか？」

自分で確認したのです。

ここまで拘った素材選びが
話題となり、平成24年6月26
日の日経新聞に取り上げられ、
今も宿泊体感や見学の方々が
大勢来てくださいます。また、
「この室内は本当に空気が美
しい」と地域の人たちが、
セミナーやワークショップ、
料理教室などに使っています。



旬
すばと

「木の香りに包まれる。都心
なにもまるで山小屋に来たみた
い」。関東を中心に住宅リ
フォームを手掛ける駿河屋（東
京・墨田）の「宿泊体感型モデ
ルルーム」を訪れた会社員の海
上尚子さん（36）は思わず声を
上げた。売り物は徹底的に天然
素材にこだわった内装だ。
5月下旬に開いたモデルルー
ムは観光客にぎわう東京スカ

リフォーム、泊まって体感

イツリー（東京・墨田）に近い
マンションにある。無垢（むく）
のヒノキ材の床や珪藻（けいそう）
土の壁だけでなく、壁紙も
食品になるタピオカを使ったノ
リで仕上げた。
国産杉のブラインドも表面に
蜜蝋（みつろう）を塗っている。
ただ見るだけではなく「一晩過
ごして五感で体感して家造りの
イメージを膨らませてほしい」
（一樹建築社長）という。
東日本不動産流通機構（東京
・千代田）によると首都圏の中
古マンションの成約件数は4月
が前年比2ケタ増。5月も約4
・5%伸びている。都心の中古
物件は根強い需要がある一方、
老朽化でリフォームが必要なケ
ースも増えている。
宿泊体験は無料。これまで週
末は予約で埋まっていた。同社
は夏休みになると平日の利用も
増えるとみている。

<平成24年6月26日の朝刊に掲載>

話題となった宿泊体感型モデルルーム「空まめの木」
宿泊体験以外にも、見学、セミナー、ワークショップや
お料理教室などにもご利用頂いている。

第3章 プロも知らない「自然素材の正しい選び方」

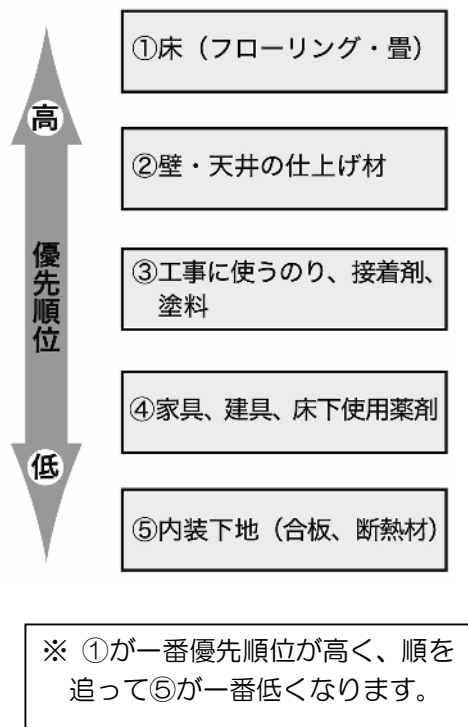
「自然素材は難しい」「何が本当に良いのかわからない」「全部自然素材にしなければ意味がないのだろうか」という考え方は、予算がいくらあっても足りません。ではどうしたら良いのでしょうか。

■ 素材選びに重要なのは「優先順位」

家づくりを予算内に納めるコツは、**優先順位を正しく知ることが重要**です。

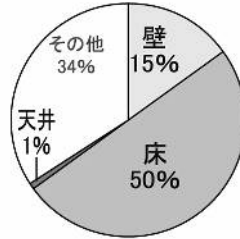
ここで、私が考える『住まいに使用する素材の優先順位』についてお話しさせていただきます。

室内に露出していて、使用量の多い内装仕上げ材の対策が最も大切です。
予算に合わせて、対策の優先順位を決定することが、合理的な対策方法となります。
ではなぜ、床が大切なのでしょう。

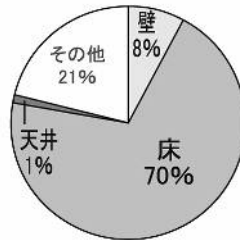


次の「室内空気の摂取比率」を見ると一目瞭然です。

＜立っている人の場合＞



＜寝ている人の場合＞



一般社団法人日本建築学会 「シックハウスを防ぐ最新知識 健康な住まいづくりのために」より

このように、床からの空気の摂取比率が非常に高いことがわかります。

また有害な物質は床付近に滞留すること知られています。

このことから、私は優先すべきは床であり、尚且つ『寝室』や『小さなお子様を寝かしつける部屋』の室内環境をまず第一に優先すべきだと考えております。

なぜなら、自宅の寝室で過ごす時間は人生の1/3とも1/4とも言われており、

さらに現代人は睡眠のストレスなどにより、睡眠の乱れで免疫機能が低下することが指摘されています。

「優先すべきは自宅の寝室を最優先しましょう」と言っても、実際は家族が楽しく集うリビングを第一に優先されたい方も沢山いらっしゃると思います。優先順位については、一度ご家族でしっかりと話し合うことをお勧めします。杓子定規に決めつけるのではなく、生活が一番楽しくなる方法を見つけてください。

■ どんな素材を選ぶのが良いのか

次に、「どのような素材を選ぶのが良いのか」についてお話します。

まずは、大きいくくりで説明します。

- ・安眠（よく眠れる・睡眠の質が良くなる）
 - ・調湿（カビの抑制・ダニの抑制）
 - ・産地、生産過程、生産者が明らか
 - ・自然素材100%（化学物質の混入ゼロ）
- このような目安で考えるのが良いでしょう。

では具体的な説明に入りますが、紙面に限りがありますので、比較的小質問されることの多い『無垢のフローリング』『珪藻土』『塗料』『接着剤』についてお話ししたいと思います。

無垢のフローリング

ズバリ、国産のフローリングがなにより一番です。産地が特定できて、生産者が明

らかなもの。さらに提供する業者が信頼できることも重要なポイントです。

どこの山から、どういった人が関わり、どのような流通経路をたどって自分たちの手まで届くのか？ この部分が不明なものはお勧めできません。

しかし中にはどうしても「インディアナのウォールナットが使いたい！」と思われる方もいらっしゃると思います。そうした方は、しっかりとプロからのアドバイスを聞き、納得した上でウォールナットを採用するのも良いと思います。

「ご自身が本当に欲しいものを選ぶ」ことは、楽しい住まいづくりにとって大切なことです。なんでもかんでも「ダメー」と決めつけるのではなく、ご自身の優先順位と、メリット、デメリットを調べた上で、ご自身が一番楽しいもの、心地よいと感じるものを選ぶ事が大切です。

そのためには、木の原産地まで足を運び、その環境を肌で感じ、生産者と会って人柄を知り、生産過程や保管方法、流通経路を把握し、自信をもってお客様に提案して

くれる工務店や建設会社さんを選んでください。必ず見つかります。

■ 人工乾燥と天然乾燥の違い

人工乾燥をした木材と天然乾燥をした木材では雲泥の差があります。是非天然乾燥材のフローリングを実際に見て触れてもらいたいと思います。できれば、天然乾燥と人工乾燥のふたつを並べて比較してみてください。艶、香りともにその差は歴然としています。

「でも、天然乾燥はかなり高いのでは？」

当然のことながら、通常ルートで仕入れるとコストは上がりますが産地の林業家さんや製材所との太いパイプをつくっておけば、お手頃な値段で仕入れることができるのです。

「天然乾燥材なんて、反ったり狂ったり大変だよ」という工務店さんもあります。

それは、反ったり、狂ったりすることでクレームになることを恐れているのです。木材は天然の素材です。当然多少の反りや狂いが出る可能性はありますが、それにも代えがたい素晴らしい良さがあるのです。

このような『乾燥方法の違い』以外にも木の選定基準があります。

私がお勧めしたくないフローリング選びの選定基準を次にあげています。参考にして
ください。

- ・無垢でも漂白や防虫処理のされたもの
- ・産地偽装品（生産者、産地が特定できない）
- ・ユニタイプ（短い材料を継いだものであるもの）
- ・人工乾燥材（香りが少ない・艶が無い・本来の良さを楽しめない）

新月伐採・葉枯らし天然乾燥の木材

新月伐採材・葉枯らし天然乾燥木材とは聞き慣れない言葉だと思います。

これらのことを詳しく勉強している方は建築業界でもほんの僅かしかいないと思います。

■「新月伐採」について

新月伐採は月の満ち欠けによって木材の伐採時期を変える方法です。これは、科学的にも立証されている伐採方法です。

2003年に『木とつきあう知恵』という本が翻訳され出版されました。

これはオーストリアのチロル地方の営林職員の方が、1996年に出版し、大ベストセラーとなった本です。月が示す正しい時期に伐採した木材は極めて良質の木材（水分や澱粉質が少ない）になるというものです。

その後チューリッヒ大学で研究され、正しいと実証されてからは、オーストリアの

森林局も方針を180度転換し、「新月の木なのか?」「そうでないのか?」を木材の証明書に明示するようになったそうです。

あのヴァイオリンの名器「ストラディバリウス」も新月の木でつくられたそうです。実は、日本でも、「木は八月の闇に切れ」という言葉が500年以上前の書物、愚子見記に残っています。これは旧暦の8月、つまり現在の9月から10月上旬ごろの闇夜、新月に切ると良い材木になるという意味なのです。

世界最古の木造建築として知られている法隆寺も「闇伐りの木」つまり、「新月の木」を使っているといわれています。

では、なぜそうした素晴らしい先人の教えがなくなってしまったのか?

それは、効率や生産性、そしてコストを重視した為にいつのまにか忘れ去られてしまったのです。

■
葉がらし乾燥・天然乾燥材について



新月になる直前まで伐採を行うのが、本当の新月伐採木材



一本一本にバーコードが貼られ、トレーサビリティがしっかりと管理されている木材は極めて希少

通常の木材は、山から切り出すと、製材して人工的に乾燥させ狂いが出ないようにして出荷されます。

しかし、本来は材木を人工的に乾燥させることなどあり得なかったのです。では、昔からある天然乾燥と、その対極にある人工乾燥とはどんな違いがあるのでしょうか。

人工乾燥とは、木材を乾燥庫に入れ、温度を上げて、木材内部の水分が移動しやすい状態を作り、湿度等をコントロールして、適切な乾燥を7日から2週間などの短期間で行うものです。

「人工的に木のミイラをつくる」という言い方もする人がいるほどです。

人工乾燥の木は、香りや色つやが本来の木の姿ではないのです。

また、内部割れや強度の低下も問題視されています。

外部が一気に乾燥し固まり、内部が乾燥していくので割れが生じてしまうのです。

表面が固くて中が弱い……。ある意味では、今の建築基準法通り、表面にビスを打って金物で止めなければならぬ弱い材料なのです。

もしも、人工乾燥で内部がスラスカに乾燥している木を使って伝統工法で施工したら、かなり危険だと思います。なぜなら、伝統工法は木の芯を繋いで作る工法だからです。

試しに人工乾燥の木を叩いてみると、内部割れした柱はなんとも言えない空っぽの音がします。天然乾燥材は何年もかけて、じつくりと強度が上がっていくのに対し、人工乾燥材は一気に劣化させて、あとは強度低下をしていくだけなのです。

人工乾燥の歴史は、明治四十二年ごろに乾燥装置が初めて輸入され、大正10年ごろから一般民間企業への普及が始まったのです。

そして、関東大震災後の復興需要。さらには敗戦後の復興需要と、木材需要が一気

に伸びたことで、供給する側も人工乾燥の木を大量に生産し出荷していったのです。

またもう一つの側面として、30～40年前は木材の価格が5万円／立米（ m^3 ）くらいでしたが、現在では1／10以下の3千円～4千円／立米（ m^3 ）にまで下落しています。ここまで安くなってしまった国産材は、国から補助金をもらって運営しているのがやつの状態です。なるべくコストをかけずに製品にしなければなりません。残念ですが、手間のかかる自然乾燥の木が急速に減少していったのです。

しかし天然乾燥の木は、人工乾燥のものとは全く別ものです。ぜひ、天然乾燥の木の艶と香りを実際に見て触れてもらいたいと思います。

次は、葉枯らし乾燥材について説明します。

葉がらし乾燥とは、山で木を切り倒したままにし、数ヶ月の間、放置・乾燥させる方法です。木の養分を飛ばすことで、虫が付き難い木になるのです。

葉枯らし乾燥は、今も全国各地で行っています。しかし、多くの産地は放置・乾燥期間が足りません。私の知るところでは、静岡県天滝のある組合だけが、3〜6カ月間の時間をかけてじっくりと乾燥させています。

さて、気になるのがコストのお話です。

直接仕入れをしている会社さんでしたら意外に安く仕入れることができます。たとえば床材でしたら、インターネットの『安売り床材』と大差ない価格で提供してもらえるのです。

「本物の自然素材は高い！」とは一概に言えません。

一度、信頼できる工務店、建設会社に相談してみましょう。

珪藻土

現在、珪藻土という名前で販売されている建材はいくつもあります。正確に数えた

ことはありませんが、検索しても多種多様の『珪藻土』が出てきます。それぞれに自社の独自の視点からすばらしさをアピールしており、一体どれが一番良いのが本当にわかりづらい状態です。

工務店がお客様に勧める珪藻土もさまざまです。あまり信頼のいけない工務店の場合は、「クレームになりにくいもの」「仕入れが安いもの」という理由で「これがイチ押し珪藻土ですよ」と、あなたに勧めてくることもあるので注意が必要です。

本来に自然素材100%の珪藻土は、カビが発生するリスクもあります。

それでも、「本物の自然素材を使いたい!」という場合は、そのリスク、メリットや正しいつきあい方などをきちんと説明してもらい、**「自身で判断すること」**が大切です。

塗料・ワックス

フローリングなどをネット販売で購入しようと調べていると『自然系塗装』という表示が目にとまります。この『自然系塗料』とは一体何でしょうか。

一般的には「これは自然由来のものを主成分として作った浸透系塗料を使って塗装してあります」という意味なのです。しかし、この塗料の素性がわかりづらいのです。そもそもメーカーで作っているので工場に出向き、徹底的な調査でもしないかぎり、本当に自然のものかどうか判断はつきません。

「有名な外国製の自然塗料を厳密に調べてみると、様々な化学成分が検出された」と、ある住宅関連団体の方に聞いたことがあります。では、何を基準に塗料やワックスを選べば良いのでしょうか。

一番いい方法は、「実際に匂いを嗅いでみる」ことです。自分に合うかどうかは自分の嗅覚で判断するのが一番です。

この方法でも不安な方には、荳胡麻種子を原料とする100%植物油を使っている塗料をお勧めしております。その根拠は非科学的ですが、自分の鼻でさまざまな塗料を匂った結果、「一番違和感がない」と感じたものです。

好みによって、フローリングに着色することも可能です。着色には昔ながらの顔料を使います。松を燃やした松燃（しょうえん）、酸化第二鉄の弁柄（べんがら）、有名な柿渋は、渋柿を粉碎、発酵させてつくります。

『木』本来の肌触りを感じたい場合には、ミツバチの巣を形成する蜜蝋（みつろう）仕上げもお勧めです。あのミツバチの蜜や子供が入っている白い蓋の部分が蜜蝋です。

当然、塗装もワックスもなしで、木本来の姿のままが心地良いというお客様もいらっしゃいます。あるいは、経年美化で飴色に変化していくので、汚れは気にならないという方もいらっしゃいます。

あなたのお好みでお選びになったら良いと思います。

糊・ボンド・接着剤

ここまでこだわっている工務店は少ないかもしれませんが、『糊・ボンド・接着剤』も重要ポイントのひとつです。

最近の木工用ボンドは、可塑剤（フタル酸エステル、リン酸エステル）を含まないというようなものもありますが、これも含め建築で使用するボンドのほとんどは「F☆☆☆☆」（通称フォースター）で、「ホルムアルデヒドの放散の少ない」というもの

です。

「フォースターだから健康住宅」などと言っている会社さんは、さすがに最近は少なくなりましたが、国が決めた濃度指針値より低いというだけです。こうした接着剤を使用せずに施工する方法があります。それは昔から接着剤として使われてきた膠（ニカワ）を主成分とした接着剤を使用することです。

この膠は主成分がタンパク質で、動物の皮膚や骨などのコラーゲンを抽出したものです。接着力は白ボンドよりも強力です。

またクロスに使う糊も、タピオカや澱粉、コーンスターチを使ったものがあります。これは食品のようなものです。ですから防腐剤を入れないと腐ってしまいます。これこそ安全の証しです。

以上、ざっと一般的な素材についてお話しさせて頂きました。

その他にも、純国産の畳や布、紙クロス、鋳物を主原料とした樹脂入りでも、ドイツの基準をクリアしている調湿効果がものすごく高い塗り壁材、漆喰や天然のシラスを使った塗り壁材など、ここではお伝えできない素材が沢山あります。

是非、お近くの専門家に相談してみましよう。

第4章 気になる予算とお手入れの話

■ 自然素材を使った場合のコストアップは

では実際に自然素材を使ったら、今の普通の住宅に比べてどれくらいコストアップにつながるのでしょうか。

ここでは構造材や外壁材などは無視して、室内環境に絞って説明したいと思います。

結論から言いますと、いへうでもお金がかかります。

自然素材、特に木材はピンキリの素材です。

「天竜産の自然乾燥で無節（節のない）の4mフローリングが欲しい」

「ケヤキの4mの無垢のカウンターが欲しい！」なんてことになると、予算もかなり見込まなければなりません。

しかし、高い物だけが本物の自然素材でしょうか。2mのフローリングで節が混じった一等材（節が沢山ある木材）でも本物は本物です。合板や貼り合わせのものではありません。本物の木の味わいがそこにはあり、香りもしますし湿度も吸収してくれます。

つまり、高級な自然素材が良いのではなく、リーズナブルでも『本物』を使うことによって、素晴らしい住環境は実現可能なのです。

また、左官仕上げはどうしても人件費がかかりますので、そうした中で労務費の比率の低い材料、たとえば布クロスや紙クロスなどを自然糊を使って仕上げることで、

大きくコストを抑えることが可能となります。

ちなみにマンションなどのフルリフォーム（住宅設備機器を全て交換して、内装を全て張替、その他間仕切り変更などなど）では床mあたり大手住宅メーカーで10万円くらい。一般の工務店では8万円くらいかかりますが、内装を自然素材に換えると、簡易なものであれば床mあたり10万円、ある程度しっかり行っても12万円程度で空気環境が全くちがったものが出来上がります。

その価値から考えてみると、それほど高くはないと思います。

あくまでも目安ですが、新築住宅で15%から、ユーズドマンションのスケルトンリフォームで20%程度からの価格アップで、『仕上げに自然素材を使った住宅』が手に入ります。

「新築の方がなぜコストアップの割合が小さいのか？」

それは、外壁や基礎、屋根などにかかるコスト全体に対する仕上げ材の占める割合が

少ないからです。外壁や基礎などの費用が必要ないマンションでは内装材の占める割合が高くなるのです。

それでも、これを35年ローンで月々の返済に置き換えると、それほど大きな負担ではないことがわかります。

■ 予算内に納めるコツ

住まいづくりでは『予算』はとても大切です。ここではどうやって予算に合わせて最適な素材選びをしていくかお話しします。

しかし、紙面の都合で素材を適材適所に使ってコストダウンする方法は次の機会にして、住宅全体のコストバランスからコストを抑える方法をお話します。

■ 住宅のコストバランスを理解し、コストダウンする方法

新築の場合ですが、全体の建築費の25%は設備工事の費用と言われています。

現代の住宅設備業界は、どんどん新商品を出さないと売れない時代です。なかには「余計なお世話系」というオプションも沢山用意されています。

でも、働くお母さんが多い現代。食器洗い洗浄機などは、家事の手間暇を少しでも軽くしてくれるのでとても助かります。

しかし、そのままの勢いでショールームに行くのはお勧めできません。

良い物、便利なものを目にとると、どうしても『豊富なオプション付き新製品』が欲しくなるようにショールームはできているのです。

そんな時、一歩立ち止まって「私たちの生活はどうありたいのか？」と冷静に考えるようにしましょう。

しっかりと設計士さんや工務店さんにショールームにも同行してもらい、コストバランスの面でもアドバイスをもらうようにしましょう。

■ 自然素材のお手入れ方法は意外と簡単

自然素材と聞けば、「お手入れ方法が解らずに不安です」という声をよく聞きます。しかし、手入れは意外と簡単です。

日常生活ではホコリを払うか、掃除機で吸い取ったら固く絞った雑巾で拭く。

ただそれだけです。逆にいろいろな薬品や道具の使用はお勧めできません。

特に中性洗剤以外の洗剤の使用や、スチームクリーナー、化学雑巾や化学モップ。もちろん、ポリッシャーなどは使えません。

お子さんが小さい場合には、ソースやケチャップなどの食べこぼしも心配です。そうした場合には、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使い、よく絞った雑巾で拭いてください。クレヨンや水性ペンなどは、布にベンジンを付けて手早く拭くと落ちます。油性ペンなら消しゴムで落ちることもあります。

これは驚かれるのですが、フローリングが凹んでしまった場合には、水を含ませた日本手ぬぐいなどを当ててしばらく置き、その上からアイロンをかけます。5秒から10秒程度ほど、様子を見ながら押しついたり離したりする作業を数回繰り返すと凹みが戻るがあります。

また、珪藻土などの塗り壁の場合は、材料を少し残しておいてもらって、ペットボトルをハサミでカットした器をつくり、水で溶いて刷毛で塗っても補修は可能です。素材や塗りパターンによって、補修箇所が目立つこともありますが、手先の器用な方であれば、それなりに補修可能です。

割れやキズがどうしても気になってしまうという方は、割れない素材を選ぶことも可能です。当然、樹脂が入っていますが、ドイツの基準をクリアしているものなど、「比較的」安心できる素材が数種類あります。

しかし、こういった素材の家に住む事は、手入れの手間よりも、お手入れをするこ
とで得られるメリットの方が大きいと思います。

何より大切なことは、手入れをすることで自宅に愛着がわいてくることです。

家族で行えば、お子様の体験教育にもなります。これは、**ものを大切に**する心、**もっ
たいない、物にも命がある**など、日本人が本来もっていた大切な「心」を学ぶことが
できるのです。これはとても貴重な体験です。

次は汚れやすい場所の素材選びについて説明します。

たとえば、玄関の段差部分の壁ですが、このような場所はどうしても壁に手について
しまいます。こういった場所に汚れの落ちにくい素材で仕上げてしまうと、手垢が
バッチリと残ってしまい、汚れが落とせなくなってしまうです。

そのような事態を避けるために、布クロスは段差付近の壁面には使わないなどの配慮が必要です。

また、キッチンの床は無垢のフローリングではシミなどの汚れが心配という方も多いと思います。そのような場合はコルクなどをお勧めします。しっかりとコーティングされているので染みつくこともありません。

さらに、長時間立っていても疲れづらく、温かいという利点もあります。ナチュラルテイストを求めて自然素材の仕上げにしたいのであれば、とても良い選択だと思います。

このように、何でもかんでもアンチ化学物質では、逆にお手入れのストレスが増えてしまって、そもそも心地よい住空間、居心地の良い住空間ではなくなってしまう可能性があります。

ということを熟慮したうえで、自然素材と新建材のバランスを考えてみましょう。

■ 大切なことは

大切なポイントをまとめてみると、

1. 自然素材、新建材のメリット、デメリットを正しく理解する。
2. 「自分はどの程度、化学物質を排除したいのか」「どんなライフスタイルを望んでいるのか?」じっくり考える。
3. 自然素材と新建材のコストバランスを考えながら、優先順位をつける。お互いの良い点を融合させる。

たとえば下地材は新建材を使用して、仕上げ材（表面の素材）には本物を使う。

しかし、予算のこともあるので、無垢のフローリングでも節の大きく入った物を選んでコストを落とす。

空いている洋間はこの際、納戸として活用し、子供が大きくなって、自分の部屋を持つようになってからリフォームするなど、『ステップアップリフォーム』を選択肢の一つとして加える。

このように、現在のライフスタイルとコストバランスをしっかりと見極め、優先順位を考えて最適なプランと一緒に考えてくれる工務店さんを探しましょう。

第5章 信頼できる施工会社の選び方

私独自の視点になりますが、この最後の章で『信頼できる施工会社の選び方』につ

いてお話したいと思います。

■ 信頼できる素材を提供しているか？

産地偽装などもある木材業界では、一体なにを信頼したらよいのかわかりません。やはり現地とのパイプをしっかりと持ち、産地に直接赴き、実際に目で見て確認したものだけを勧めてくれる施工会社を選びましょう。必ず見つけられます。

他の素材も同じです。製造現場を自分の目で確認せずに、メーカーのカタログ表記だけを頼りに、「弊社はこの素材をお勧めします」という施工会社が多いのです。

大切なご家族が過ごす住まいづくりです。

素材の確かな目と、責任感、使命感に満ちた施工会社を選ぶための手間を惜しんではいけないのです。

■ 契約前に現場で実際に住まいづくりに携わる人に会ってみましょう

リフォーム会社や工務店、住宅メーカーの営業マンは「契約をとる」ことが仕事です。契約をとることで必死の営業マンはあなたのもとを何度も訪れるでしょう。

リフォームや新築工事において、『契約した理由』の第1位は、「営業マンが熱心だったから」「営業マンが信頼できるから」というものです。

しかしちょっと待ってください。

あなたがお金を払って買うのは『住宅』です。『営業マン』は家を建てません。家を建てたり、リフォーム工事をするのは現場の人たちです。

営業マンと同じように、『現場監督』や『職人さん』を見極めなければならないのです。

「自分の大切な住まいをどんな職人たちが建ててくれるのだろうか？」

あなたが契約しようとする施工会社は、現場の顔が見える仕組みになっていますか？

営業マンの人柄は、大前提のことであって、さらにしっかりと見極めることは、現場での働く人たちの姿勢、心意気です。

■ 長くお付き合いしてくれる会社さんですか

「10年先、20年先、もし自分の家に何か問題が起こったときに、この会社はしっかりと対応してくれるのだろうか？」

施工会社を選定するときに、この大切なポイントをどれだけの人が重要視しているでしょうか。家が完成して、その後全く何も問題が起きないということはあり得ません。

誰が、いつ、どのように、アフターメンテナンスを行ってくれるのか。

定期的にメンテナンスをする仕組みのある会社なのか。

長期に渡って親身につきあってくれる施工会社を選びましょう。

イベント、ニュースレター、メールマガジンなどで、定期的に繋がりを保ってくれる会社を選んでおけば、築後20年でも「スミマセン、雨といが壊れました。至急、見てくれませんか」とすぐに声をかけることができます。

■ 現場見学会に行こう

家づくりやリフォームを考え始めると、様々な情報収集をされると思います。その過程で多くの情報に流され、惑わされない為には、本物の情報に触れることが大切です。

綺麗なモデルハウスや見せかけのデザインチラシではなく、本当に大切な情報とは、その会社の日常の事務所やスタッフの対応や、生の工事現場にあります。

この最も大切な情報を見ずして、家づくりやリフォームを決めてはいけません。本物の情報は自分の目と手と足をも使って確認をしなければなりません。

例えば現場見学会は、その会社の生の姿です。それは見せる為に建てたものではなく、現実のご家族が身銭を切って真剣に作りあげた生の家です。

皆さんが家を建てたい、リフォームをしたいと思ったら、現場見学会にぜひ足を運んでください。

品質はもちろんのこと、スタッフの対応や、職人さんたちとの挨拶からも、今まで見えなかったことがハッキリと見えてきます。

そして、一番のメリットは、「美味しい空気の家か」を心と体で感じとることができるのです。

あとがき

11年前の私はゼネコンに勤務し、華やかな商業ビルやお洒落なマンション、そして個人住宅を建てる現場監督でした。

ピカピカ輝く建物を創る喜びもあったのですが、心のどこかでは「何か違う?」と違和感を持っていたのです。

バブル経済崩壊後の1990年代前半、既に木材業界はかなり衰退していました。そのような中、高齢の父は、小さな材木屋をなんとか経営していたのです。しかし、ついに父の引退の時が訪れたのです。

私は345年も続いた材木屋「駿河屋の暖簾（のれん）」を守るために事業継承すると共に、思いきって『建設業』へと事業転換したのです。

ところが、私が社長となった初年度の売り上げは僅かなものでした。

「これじゃとても駿河屋の暖簾は守れない……」と何度も廃業を考えたのです。

真つ暗闇の絶望感のなかで、私の会社経営は2年目に入ったのです。

すると、すこしだけ明るい兆しが見えてきたのです。

周りからの温かい力添えもあって、徐々に仕事が増え、新築住宅やリフォームの仕事をしていただけるようになってきたのです。

1棟、2棟、3棟と仕事が入り、「よし、良い家をつくるぞ」と、私は休日返上で必死に働きました。でも、何か満足できないのです。何か足りないのです。ゼネコン時代に抱いていたあの『違和感』がどんどん増すばかりでした。

ある日、「靖人、木は素晴らしいぞ。駿河屋の原点に戻ってお客様に木を勧めてみたらどうだ」と父が言うのです。

「そうか、住宅に欠けていたのは本物の木などの『自然素材』だったんだ」
「あの違和感の原因はこれだったんだ！」と直感したのです。

その後、私たちが手がけた家に住まれたお客様から、

「あなたが勧めてくれた木を使ってよかったです」

「住んでみてわかったけど、友達の家とは明らかに違うんです。

心が落ち着くし、なんといっても家の中の空気が美味しい」

と嬉しい感想をいただけるようになったのです。

本物の木の魅力を感じはじめた頃のことです。

一部の農家や食品メーカーが、「自分も食べたいと思う『本物商品』をお客様に提供してない」という悲しい事実を知ったのです。

そして、自分も身を置く建設業界もそうではないかと、自分を含め強い怒りと共に深い葛藤が芽生えてきました。

農薬や食品添加物の問題と、新建材の問題は非常に似ています。しかし、冷静に考えてみると、それらを全て否定してしまうと社会生活が成り立たなくなることになっていたのです。

「しかし、『成り立たない』と言ってもこのまま放置していいものか？」

「お客様も、施工会社もコストを優先するこの業界で、『安全な自然素材』のことをお客様にどのように伝えたらよいのか」

「どうしたら、許せる予算の中で、『安全な自然素材』を家づくりに取り入れてもら

えるだろうか」

私はその答えを見つけようと、木の産地へと通うことにしたのです。

私はたまたま材木業を代々続けてきた家の跡取りだったために、自然のものに愛着を感じていましたが、自然素材のことを勉強しようと産地に通えば通うほど、さらに自然の魅力・深さに心を奪われていったのです。

家に残る古い教え「ものには命がある」「自然に感謝すべし」が、私自身の「精神の根っこ」にもしっかりと息づいていたようです。

今ではそうした私自身の『想い』に共感してくれる心の通った素敵な社員と仕事ができることに感謝しています。

そして、お客様に『本物』をお伝えしながら、幸せな住まいづくりのお手伝いをさせていただけることが本当に有り難く、私の使命・天職だと感じています。

この度、この小冊子を手にとり最後まで読んでくださり、本当にありがとうございました。

皆様の住まいづくりが大成となり、より幸せな未来へ繋がることを心より祈っております。

一 柵 靖 人

この本の売り上げは
全て静岡県の新月伐採を行う
木の苗木として
寄付させて頂きます。

●著者プロフィール

一 桒 靖 人

(いちます やすひと)

1969 年生まれ 東京都出身

東海大学工学部建築学科

SBI 大学院大学経営管理修士

一級建築士 一級施工管理技士

平成 4 年 スターツ(株)入社

平成 14 年 (株)駿河屋入社

平成 14 年 代表取締役役に就任



●連絡先

株式会社 駿河屋(一級建築士事務所)

〒131-0033 東京都墨田区向島1-24-16

電話 03-5637-1179

FAX 03-5637-1180

Eメール:info@surugaya-life.jp

● 駿河屋 ホームページ

<http://surugaya-life.jp/>

駿河屋 自然

検索

Facebook ページ <http://www.facebook.com/surugaya>

●「空まめの木」ファンページ

<http://www.facebook.com/soramamenoki>

●メルマガ「社長の厳選素材住宅論」

登 録 ・ 解 除 ペ ー ジ

http://surugaya-life.biz/neo/usrctrl.php?mag_id=1

自然素材住宅で本物の美味しい空気の創り方

平成 25 年 4 月 8 日 初版発行

著者：一桒靖人

定価：800 円（税別）

© Y.ICHIMASU Printed in Japan 2013

ISBN 978-4-904392-17-1